

開発3年経て市販へ

DDFトラックを納車

福岡LPGセンターに第1号車

エフ・ケイメカニック



福岡LPGセンターに納車されたDDFトラック
第一号車。②は山村社長(エフ・ケイメカニック提供)

本紙で既報(2016年11月22日付第2856号)のエフ・ケイメカニック(大分市、古川克己社長)が開発したDDF(ディーゼル・デュアル・フューエル)トラックの第一号車が3月20日に福岡LPGセンター(福岡市東区、山村知郎社長)に納車され、開発からおよそ3年で市販にこぎつけた。

納車されたのは、日野DUTROベースの3ト積み容器配送車で、DDF架装や荷台架装、その他用品等の取付、車両本体の販売をエフ・ケイメカニックが担当した。当日は現地で山村社長をはじめ関係者が集まり納車を祝った。

今回の導入について、山村社長は、「車両の仕上がりはとても良く、走行性能はLPG専用車はもちろんディーゼル車以上のレベルなので、運転手の評価は高い。1年間燃料使用量のデータを取って良い結果が得られれば、来期以降も計画的な導入を検討している」と話し、期待を寄せている。

また、事前にデモカーに試乗した同社の運転手からも、「登坂時にみられる、LPG専用車の出力不足のストレスは解消されるだろう」と性能面の向上を裏付ける声もあった。

さらに、「燃料コスト削減はもちろん大事だが、何より燃料としてLPGガスを使うことが重要。車両メーカーのLPG専用トラックが今後なくなることも考えられ、LPG車を全てディーゼル車に代替することは、ガス事業者としての立場やオーナー消費を考えると躊躇するところだ」として、経済性やオートガス需要拡大の観点からも、トラック分野での、LPG車開発継続の必要性を訴えた。

LORAWANを活用

集合住宅で水道自動検針

三好不動産、アズビル金門など

三好不動産(福岡市、三好修社長)、NTT西日本九州事業本部(福岡市、小澤正憲取締役九州事業本部長)およびアズビル金門(東京都豊島区、上西正泰社長)は、LPGA(省電力広域無線通信)ネットワーク「Fukukoka City LORAWAN」を活用した実証実験を1日より開始する。

この実証実験では、集合住宅棟の全戸に設置するスマート水道メーターを組み合わせる。近年、あらゆるモノがインターネットを通じてつながるIoTは、産業や社会等さまざまな分野に急速に広がり、ビジネスモデルや人々の暮らしを大きく変革することが期待され、リアルタイムでの情報収集や遠隔制御等が行えるようになってきた。

Fukukoka City LORAWANは、福岡市からの委託に基づきNTTネオメイトが提供する、福岡市内広域のLPGAネットワークサービス。これに、水の流量等を一定間隔で計測し、蓄積したデータを要求に応じて伝達する機能

料金透明化で調査実施 法令順守状況など実態調査

総務省北海道
管区行政評価局

総務省北海道管区行政評価局は、LPGガス料金の透明化及び取引の適正化を図る観点から、①LPGガスの消費者からの苦情・相談の受付状況、②LPガス販売事業者における、③行政機関における指導状況―等を調査し、その現状と課題を明らかにするための調査を実施する。

同局では地域住民の生活に密着した行政上の問

改善を図るための調査(地域計画調査)を自ら企画、実施しており、今回の調査はその一環。LPGガスについて、料金の不透明性や取引方法に関する問題が指摘されている。調査は、LPGガス料金の透明化及び取引の適正化を図る観点から、液化ガス省令等・取引適正化法を調査する。調査実施期間は4月～

研究助成